

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

洞爺湖有珠山ジオパーク、これも洞爺湖町と豊浦町、壮瞥町、これも地方創生で交付金申請して9,400万ぐらいついでる。これもやっぱりジオパークを本当に利用して経済に結びついていたきたいんですよ、やっぱり。いろんなまちづくりも含めて農産物、農林水産業も含めて、商店街も巻き込みいろいろな形で、そのDMOという組織をつくりながら、このジオパークも含めてどうやっていくか、これが一番、すぐつくれっちゃあないんです。やっぱり皆さんで協力して組織を挙げてどうするか。県に聞けば本当に全部分析、地方をその辺でマーケティングの分析をしながらやってくると、県が調査して。ちょうど手を挙げるのは本当にいいと思うんで、ぜひお願いしたいと思うんですがいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今お話のあった洞爺湖町も今DMOの9,000万円が国の補助金をもらってやろうとしています。この取り組みの中にも日本全国のジオパークは関連してやっていこうという取り組みであります。糸魚川市からも「まこちゃんうどん」などを洞爺湖のほうに持ち込みましてPRする予定に今しております。スケジュール的には、今現在、観光協会が日本版DMO候補法人の登録に向けて作業中であります。できれば年度内に申請をしていきたいというように考えておまして、いずれにしてもこのDMOを中心にしながら糸魚川市の観光地づくりを進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

すばらしいことをここまで具体的にやってるというのは知りませんでした、ぜひこの辺も含めて力強く、妙高に負けんように進めていただきたいと思います。

これで一般質問を終わります。ありがとうございました。

議長（倉又 稔君）

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

次に、古畑浩一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。〔20番 古畑浩一君登壇〕

20番（古畑浩一君）

奴奈川クラブの古畑浩一でございます。

これより一般質問をさせていただきます。

1、新幹線時代に対応したまちづくりの推進について。

昨年の12月議会でもお聞きいたしました。時間切れとなったため再度質問をさせていただきます。

(1) 新幹線開業を見据えて、長年協議されてきた駅周辺整備計画ですが、北口の空き店舗対策、南口の空き家対策についてなど、いまだ具体的な方針が示されていない。

新幹線時代に対応したまちづくりを今後、どのように進めていくのかお聞かせいただきたい。

(2) 駅南地区の都市再整備を図るべきと考えるがいかがか。

(3) 中央区地内のJR社宅が取り壊され、宅地とする計画案が示されていると聞くが、市として有効利用するお考えがあるかお聞かせください。

(4) 来年度の組織改編に伴い新設される仮称計画交通係の役割とは何かお聞かせください。

2、人口減対策事業について。

(1) 28年度予算編成に当たり重点施策として人口減対策を掲げ「具体的に実数を上げる方向で目標をしっかりと定めたい」としているが、具体的な内容、目標とする実数とは何かお答えください。

(2) 夢を叶えて、若者や女性が輝くまちづくりを実現するための具体的な施策について。

持続可能なまちづくりを推進するためには、女性の地位向上、就労条件の改善、子育て支援の拡充が不可欠。

若者の市外流出を食い止めるには、就職・男女の出会い・安定した収入・遊び場が不可欠。環境をどう改善できるか、危機感を持って取り組むべきであると思うがどうか。

(3) 地域活性化とコンパクトシティの推進について。

系魚川の半数以上の地域が限界集落となり、集落運営の危機であり、過疎高齢地域の活性化推進と維持困難な集落の集団移転、コンパクトシティへの取組は、複雑な要因が絡み合い実現は困難と思えるが、避けては通れない道である。

実態調査と集団移転について検討すべきと考えるがいかがか。

3、公立高校再編計画と魅力ある学科について。

(1) 高校の魅力づくりについて。

地域の未来を支える若者の定着は最も力を入れるべき事業です。

白嶺高校の学級減問題でも指摘してきましたが、地元高校への進学率の低下は由々しき事態であり危機感を感じるものです。

学級減が決定し、県教委の高校再編方針が発表された今、系魚川市として早急なる対策を講じる必要があると考えます。

一般的に魅力ある高校とは、学力水準が高く、国立・有名私立大学への入学が可能であること。文化・スポーツ活動が盛んで、才能を伸ばし全国大会やインターハイ、甲子園などの出場が夢ではない環境と指導者がいること。学業以外の専門知識や資格を習得することが可能で、就職に有利になることなどが挙げられますが、市当局として、魅力ある学校づくりとは何か、またどのように進めていくのかお聞かせください。

(2) 新潟県教育委員会は、高校再編成をどのように進めていくのか。市内高校の統廃合はあるのか。年次計画はどのようになっているのか。お聞かせください。

(3) 県の計画に対して地元の意向は、どの程度反映されるのかお答えください。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

古畑議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目と2点目につきましては、新幹線開業とあわせて中央大通り線、駅南線、自由通路などが整備され、交通の流れも変化してくることから、新幹線開通後の状況も踏まえて都市計画など市全体の市街地のあり方やまちづくりの方向性を検討してまいります。

3点目につきましては、まずはJR西日本に社宅の跡地を売却する場合には、市が買い取りたい意向を伝えてあります。

4点目につきましては、建設課に新設予定の計画交通係は都市計画とバス・鉄道などの公共交通を所掌し、それらを一体的に推進していきたいものであります。

2番目の1点目につきましては、人口減対策といたしまして、新たにに取り組む事業といたしましてU・Iターン、市内就職者に修学資金の返済支援や通学の新幹線定期券の購入費用助成などを計画いたしております。目標といたしましては、人口ビジョンの中で転出抑制と転入促進による社会動態を改善する目標値といたしまして、32年度までの5年間で150人を掲げておりますので、28年度の社会現象の改善値といたしましては、30人と考えております。合計特殊出生率につきましては、32年度に1.78を目標といたしております。

2点目につきましては、新たにに取り組む事業といたしまして子供の出生を祝う商品券の支給、求人情報発信への支援などを計画いたしております。

また、就労環境の向上につきましては、企業の取り組みを支援してまいります。

3点目につきましては、人口減少や高齢化により、住民生活に必要な機能の維持が困難となっており、持続可能な地域づくりに向けた地域づくりプランの策定とあわせて市街地や中山間地を問わず、市全体のまちづくりのあり方について調査・検討してまいります。

3番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますのでよろしくお願いいたします。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

教育長（田原秀夫君）

古畑議員の3番目の質問にお答えいたします。

1点目につきましては、高い学力、活発な文化スポーツ活動、就職に有利といった魅力のほか、

他校では学べない糸魚川の特色を出すことにより、市外から生徒が集まる学校づくりを進めることと考えております。

白嶺高校につきましては、県教育委員会と意見交換を実施し、魅力づくりに向けた懇談会を立ち上げることになっております。

また、市では、新年度から魅力ある高等学校づくりのため、高校独自の取り組みに支援してまいります。

2点目につきましては、県教育委員会が策定した県立高校の将来構想では、1学年当たり4学級に満たない学校は、他校との統廃合を検討し、適正化に努めるとしてしております。上越エリアにおける再編整備は、31年度から34年度の間、普通科系の高校と総合学校の高校を統合する計画2例が示されております。

3点目につきましては、将来構想では小規模であっても、ほかにはない特色ある教育活動を展開していれば存続することもあり得るとされていることから、今後、懇談会等からの提案が実現されるよう県との意見交換を継続してまいります。

以上です。

議長（倉又 稔君）

暫時休憩をします。

午後1時25分 休憩

午後1時26分 開議

+

議長（倉又 稔君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

それでは、大きな1番につきまして、今ほど市長がご答弁いただきましたように前回の答弁では、新幹線の開業とあわせて中央大通り、駅南通り、自由通路など交通の流れが変わってきていることから、新幹線時代に対応したまちづくりに向けて都市計画も含め市全体で市街地のあり方を検討していくというふうに答弁されております。この件につきましては、具体的にどのように検討していくお考えなのかお聞かせいただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長（申橋秀樹君）

平成28年度から取り組むこととしております都市計画の見直しの中で、人口、産業、土地利用、建物、都市施設、交通、地価、自然環境、公害及び災害、景観、歴史等の都市計画の基礎調査を実

施いたしまして、市街地や中山間地を問わず、少子高齢化による人口減少社会に対応したまちづくりを全体の構想や方針を打ち出して、その中で検討していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

都市計画を見直して基礎調査等を行っていく、このタイムスケジュール的なものは、どのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

建設課長（串橋秀樹君）

平成28年度からスタートいたしまして、2年間かけて平成29年度末までには、見直しをしたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

市長、昨年、経営団体や商工団体がテレビ等で活躍している林 修先生を招いて市民会館で講演会をやられましたよね。その際、糸魚川のホームにおりたのは、私のほか二、三人だった。駅から市民会館まで歩いたが、誰1人会わなかった。空き家が大変目立ったなど糸魚川市の第一印象を非常に寂しい町だと感じたというふうに聞いておりますが、市長としてどのように思われたかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

申しわけございません。

私、それにはちょっと出席しておりませんでしたが、そのようなお話を聞くとやはり寂しい限りであるわけでありますが、しかし、今現在、非常に1時間に1本の新幹線の中においても大勢おりるときもあれば少ないときもあるわけでありまして、平均して800から1,000を超える部分が今、1日ある現状でございますので、私といたしましては、どれだけでも多く、やはりご利用いただいて地域の発展につなげていきたいと考えておりますが、そういうような現象もやはりあることも現実と受けとめております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

新幹線の開業、それから世界ジオパーク、大変いろんなマスコミ、いろんなジャンルで糸魚川というのは取り上げられて新聞やテレビ等にも大変多く出るようになってきた。

しかし、言葉は悪いですけど、北のシャッター街、南の空き家街と言われるこの第一印象ではイメージが悪過ぎるんですよね。これをどう打破していくのか、これは実際には、開業する前からの大きな課題ではなかったかと私思うんです。今ほどの計画では、28年度から29年度までに計画を策定して、それから実施ということになっていきますよね。市長、それでは少し時間がかかり過ぎますし、宿題として考えるならば早急にも着手していかなくちゃならない命題ではないかと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まちづくりの手法、地域の振興というのを捉えてもいいわけではありますが、その手法の中においては、やはり今、地域づくりプランを策定という形でやってまいりました。それは、我々がつくってまいりました基本構想、基本計画、実施計画とあわせながら地域ビジョンをつくってまいってきたわけではありますが、しかし、地元の人たちもそういった以前からある課題などを取り組む、そういう中において地域の活性化というの、やはりそこに住んでおられる住民の皆様方や企業、団体の皆様方の、どう自分たちの住んでおるところをつくり上げていくのは、自分たちの、どうするのがいいのかという、その辺もまとめる中で私は取り組んでいきたいという形で進めてまいりました。そういう中で、駅前通りの皆様方の、あのようなまた1つの、この整備計画を立ち上げていただいて、連携してきた部分がございます。それと同じようなことをやはり連携してやらなくちゃいけないんだろうと思っております。行政指導の中で、全てやれるというものではないと思っておるわけでございますので、その辺もずっと呼びかけてきておるわけでございますので、今そういう機運もいろいろ高まっている部分もあろうかと思っておりますので、その辺と一体となって進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

市長ご答弁のとおり、北口商店街、大変頑張ってると思うんですよね、イベント等も含めて。今、町なかのさまざまな講座を開いてみたり、月1回ぐらいのペースの中で一生懸命北のまちづくりというのを考えてる。問題は、南口だと思うんですよ。これは、駅南側周辺の空き家や空き地、これの実態調査というのをされたのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

26年度と27年度にかけまして、南口ということだけでなく糸魚川市全体の空き家がどのような数があって、どのような状態にあるかというのを今、調査してるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

中央区周辺はどうですか。調査でそんな時間かかるのかいな。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

おおむね中央区、駅の南側の周辺については、今30件程度ということで昨年度の調査なり地元の区長からお聞きしてるところでは、そのような状況というふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

どこの区長にお聞きしたのかわかりませんが、私が所属する中央区の区長にお聞きしましたら49件です。これは空き家以外に周辺の空き地というものも、これはまだほかにあるんですよ。そのようにやはり人口対策で出た定住課なんか、この辺の問題については調べてないんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

定住促進課長（渡辺 勇君）

空き家の活用という面では、私のところが所管してることでございますのでそうなんですけども、個々に調べてはおりません。

ただ、中央区の中からでは、空き家を売買だとか貸してもいいとかというような申し込み等はございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

まるで人ごとみたいですね、何にも危機感も、これから新しいまちづくりをしていこうっていう熱気も感じられる答弁じゃないじゃないですか。地元の区長さんに聞いたら30件だったと聞いたって、49件だと地元は言ってる。いつの話をしとるんだか、調査始めると言たって定住促進で空き家等の活用を考えますと大々的に言ってたって何も考えてないじゃないですか。もともと開業前は、駅南通りはシンボルロードとして位置づけて新たな町並みを形成していくということだった

んです。

しかし、現在、市内随一を誇る広い道路は、開業1年が経過しようとする現在も空き家や空き地が軒を連ねる寂しい町並みなんです。それで、現在、大手の不動産業や建設業者の皆さんが盛んにリサーチをかけています、市外の方々。民間任せの統一性のない開発になってしまうということを私は憂えているんですよ。もともと中央区というのは、新興住宅地でした。

しかし、乱雑な開発計画によって碁盤の目のように整備されなくちゃいけないのが段違えたり、行きどまりになったり、道路の幅が違って狭くなったり、そういう開発の失敗をもう一回やるんですかと言っている。

そこで、やはり私は提案するのは、ミニ土地区画整備事業や景観条例、町並み整備事業に取り組むべきではないかというのを、これまでもずっと提案してきたんです。

例えば駅前の赤レンガ車庫、あのモニュメントをイメージシンボルとした大正ロマン風の建築や赤レンガ通りといったれんがに関するような通り、町並みに統一していく。もしくは、天津神社に通じる純和風の町並みとして表参道通りにするなど、個性あるシンボルロードの実現ということに対して官民一体となった取り組みができないかとずっと提案してきた。これについていかがお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤産業部長。〔産業部長 齊藤隆一君登壇〕

産業部長（齊藤隆一君）

古畑議員のご意見も一理あるのかなと思いますけれども、今現在、駅南の景観からいきますと、やはり閑静な住宅街という部分と、もう一つは中央大通り線を挟みまして、もう少し南を考えた場合には、この庁舎も含めてでありますけれども、いわゆる公共施設、文化施設も含めて市民会館等の施設も含みますけれども、いわゆる公共施設エリアという位置づけになっているというふうに思っております。こういった位置づけの中で、今後、駅南エリアにおいて今のご提案の土地区画整理事業なり、あるいはまた景観条例等を検討してはどうかというご意見だと思いますけれども、これまでは、特にそういった景観条例的なものは、検討はしてこなかったのが現状であります。先ほど申し上げました都市計画の見直しという今タイミングを迎えておりますけれども、こういった中で検討できるものがあるとするれば、そういった全体のまちづくりを見る中で考えていくという部分でありまして、特に駅南だけに限ったということではありませんけれども、全市的なまちづくりを考えたときにそういったものも考えられないかという部分をご意見としてお聞きしておきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

私が言ってるのは、今ある大きなお金をかけて何かつくってくれ、建ててくれという考え方じゃない。今、空き家で、これから建っていこうとする建物や建築物に対して、ある程度の景観のグラウンドデザインというものを示して、自然にそういう町並みというのをつくっていきやどうかと。何

でそこにそんな面倒くさい手続が要るのか、このまま放っておくと洋風な家が建ったり、和風の家が建ったり、また軒を連ねるところがばらばらの景観になってしまう。空き地が連担するということは、そういったことを新たな町並みをつくれるというチャンスなんだということなんです。これ頭の中に入れておいてください。町並みをつくっていくということなんです。

それから、先ほど市長の話にもありましたけど、地元がやっぱりその気にならないと新たなまちづくりはできないということなんですけど、地元中央区でも若い世代を中心に駅南を活性化させたいという意識が出始めております。イルミネーションを飾りつける事業や駅南口イベントなど、こうした要望を受けて、私は、駅南口にぎわい創出事業、これらにも取り組んでいくべきじゃないか、新たな事業を創出して活性化を促すべきではないかと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に我々といたしましては、非常に期待をする動きが今出てきておられるなということを感じ次第であります。確かに議員ご指摘のように、ある程度、乱開発になってしまうとまたこれを1つに統一した1つの町並みをつくるとなると非常に至難のわざであります。そういう中で、今、都市計画の中においては、位置づけが明確になっておるわけでありますので、その辺も含めて地域の皆様方や、どうあるべきかということをやっぱり考えていかなくちゃいけないんだらうと思っております。そういう中でのランドデザインは、やはりしっかりとっていかなくちゃいけないわけでありまして、今あそこが開発される時は、昭和30年代であるわけでありまして、当然、今の現代の中においては使い勝手の悪い町並みになつとるとするのは、重々承知の上でございますので、そういった皆様方の声を大きく上げていただくことが非常に取り組みやすくなるという捉え方でありますのでよろしくお願いいたしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

やっぱり若者を中心としたまちの活性化にどんどん頑張ってもらおうということで、やはり今そういう事業が全国的に大変ふえてます。

1例を挙げますと、山形若者チャレンジ応援事業、若者が力を発揮できる環境づくりを進めるため、若者の主体的な取り組みの実現化の機会を提供し、若者の県づくりの参加を促進することを目的に若者が企画する地域課題の解決や地域の元気創出活動など多彩な取り組みについて企画案を募集して助成・補助を行うもの。定額で最高100万円まで、こういった事業がやはりあれば、じゃあ私もやってみよう、俺もやってみようというそういう団体が今ふえてきてますから、これをぜひ実施してほしい。

それから、やはり若者夢づくり応援事業、こういうのをお考えいただきたい。若者を中心とした音楽のイベントやスポーツイベント、これは青少年の育成だとか、こないだもロッコンという音楽

のコンサートをやりました。高校生たち大変喜んでくれたんですが、リニューアル記念の1カ年の企画だったんで、あれは来年からはないんですけど、やはりやりたいという要望があるんです。でもやりたいけどお金がない、お金がないからなかなか難しい、やはり寄附を集めないといけない、市民会館でやるとね。こういったことも含めて、若者チャレンジ応援事業や若者夢づくり応援事業、こういった新たな事業を取り入れるというお考えはございませんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今の中央区の空き家三十幾つだ、四十幾つという我々が調べても四十幾つあります。非常に蜂の巣のような状態にあるわけでありますので、そういう中で、例えば整備したときにどういうスペースが必要なのか、今ご指摘のようないろんなイベント、そしてまた、今ほど部長が答弁したように市の庁舎に近い、市民会館に近い、いろいろ連携プレーができるわけでありますので、イベントをどのように開催してできるような方向に持っていくのかということもいろいろ想定できるエリアであるわけでありますので、そういったものを地権者の皆様、やっぱり地元の皆様方が言う意見を地権者の皆様方が聞きやすいだろうと思うんです。行政主導で入っていくとなかなか公共事業のために何で個人の土地を出さないかんとというような、非常に違った観点から、また意見を言われる方も出てくるわけでありますので、やはりそのように一体となってやっていくんだ、地元の声を中心にやってできる事業なんだというような形になってくれば、また進捗ぐあいも違ってくるんだろうと思いますので、そういった情報は常に早目にいただく中で連携しながらそういう事業も、私はつくっていてもいいし、立ち上げてもいいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

これは市長のお言葉として地元のほうには伝えてまいりたいというふうに思っております。商業施設が全くないんで、北口商店街のようなイベントを起こす力がないです。あくまでもコミュニティでやってることなんで、そういったことをやる気を見せれば新しい事業も予算もつくよという話もじゃあさせていただきたい。

それで、もう一点、今度違う観点で、先ほど言ったJR西日本の所有する社宅、これは市が一括で買い取って、今後とも活用できる方向をつくっていくということのお答えだったと思うんですけども、これについては私は、例えば商業施設が北にありますし、南寺町でも大変大きな商業ゾーンがありますから、商業施設というんじゃなくて、よく古川議員が提案しておりますが、例えば地域包括支援センター、近くには翠明苑ですとか、また病院だとかクリニックなんかたくさんあるわけですから、逆にああいうところを活用して、そういう地域包括支援センターや、また今検討されている糸魚川版CCRC、外からの移住者の受け入れとして新たな町並みをつくって、その中に来ていただいて活性化させていくというお考えはどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤産業部長。〔産業部長 齊藤隆一君登壇〕

産業部長（齊藤隆一君）

先ほどから都市計画の見直しという話が出ておりますけれども、これとあわせて、立地適正化計画という都市計画とほぼ並行して進める計画づくりをしております。これは、今、古畑議員から言われる例えばの話ですけれども、そういった民間施設の関連施設の誘導という部分も、この計画の中で検討を進めていきたいというふうに思っています。今はJRの土地が云々ということは別にしましても、あれだけのまとまった一団の土地というのは、市の中心部ではなかなか出てこない物件なんだろうというふうに思っていますので、買う、買わないももちろん今後の話なんでありますけれども、立地適正化計画の中で、そういった施設誘導という面も検討していきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

さっきもちょっとお答えいただいたんですけど、計画交通係の役割というのをもう一回ちょっとお聞かせいただきたいんですけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

計画交通係は、主に都市計画の部門とバスとか鉄道、いわゆる公共交通の交通部門、これを一体的に推進するというのを所掌事務とする係であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

都市整備に関する部署の開設が必要だと訴えてきたことの1つのご回答なのかなと思う。けど、係でやれますか。初日には、伊藤議員も戦略的企画室の必要性訴えてましたし、これは当然その前まで行政改革でも総務文教委員会の中でも各議員さんも、やはり糸魚川はもう少し縦、横の連携を強化した戦略的な企画を考える部署が必要だという期待が高かった。こうした、先ほど私が提案したようなことも大きなシェアや、これからそれぞれの地区の特色を生かして連携を図れて、さらに民間一体となることができるような都市計画って私は必要だと思う。そのための部署として、私は非常に期待してるんですけども、これはそういう部署だというふうに理解してよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

この係の背景には、先ほどからお言葉の中で出てきておりますが、都市計画の見直し、あるいは立地適正化計画、それから地域公共交通網形成計画、こういうものを平成28年度あるいは29年度にわたる部分もございますが、策定してまいります。こういう部門を一体的に取り扱いながら糸魚川のまちづくりを新しいまた交通体系の中で見直しをしていくという部門であります。係で十分かという議論であります。係とか室とかいろんな名称がございますが、新しい組織の体制の中では、係で両方を一体的に推進するということでの組織の充実を図って進めていきたいという考えであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

わかりました。これはまた今後見ていきますし、私はできるならば金子部長もじきじきに企画引き連れてこういう計画、やっぱりやっていっていただきたいというふうに思っております。

南口の広場の下には、金子部長の実家があった場所でもありますから、ひとつ自分の生まれた場所ということも含めまして、糸魚川の新たな顔づくり、ストリートづくり、それからさっき五十嵐さんが言われたストーリーづくりということについて、ぜひ尽力していただきたいというふうに思います。

次に、人口減対策事業に行きますが、今回発表されました国勢調査の結果、総人口や高齢化率とはどういうふうになられたかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

井川総務課長補佐。〔総務課長補佐 井川賢一君登壇〕

総務課長補佐（井川賢一君）

国勢調査の速報値であります。人口が4万4,161人ということになっております。細かい統計については、28年の10月に発表予定でございますので、この時点で今、高齢化率というのは、出ておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

一番最新のデータをもとにというふうに思いましたけども、まだ国勢調査の細かい結果が出てないというならしょうがないです。これもずっと糸魚川市でも検討を重ねてきてる事業であって、出生率のみの改善の場合、それから社会動態のみの改善の場合、将来の予測値、それから目標数値等が示されておるんですけども、これは今回、改善されたかどうか、改善されたというふうに思いますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

国勢調査の結果からすると改善されたわけではないという。人口ビジョンにおける社人研の推計値は、4万5,191人ということで、それと比較するとマイナス1,030人という結果となっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

これも藤田課長やっぱり中心になってつくられた、まち・ひと・しごとの総合戦略、これ私、大変よくつくられたと思うんです。特に現状認識や分析についてはすばらしい。それを受けた施策につきましては、何だこれと言いたくなるのもいっぱいありますけど、全体がやっぱりすばらしいです。ここもやはり指摘されてますけど、自然動態では出生数の減員などで毎年約400人、社会動態では15歳から24歳までの転出が大きくて、毎年250人が減少、総じて毎年約650人が減少し続ける危機的状態である。これからいくと結論的には、毎年400人以上の子供が誕生して、250人の若者が定住しなければ人口減少に歯どめがかからない状況であるというふうに私思うんです。これらの状況を鑑みるに、来年度予算編成を見ても効果的かつ魅力的な施策が不足していると考えますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

新年度の予算でありますけれども、議員の皆様にも予算のポイントということで資料をお配りしておりますけれども、その後半のほうに総合戦略事業についての予算計上状況ということで計上しております。その中では、継続事業のほかU・Iターンの修学資金返済事業など18の新規事業、16の事業拡充という形にしております。

また、あした提案する一般会計補正（8号）でも加速化交付金事業として新規事業を提案する予定であります。それで十分かと言われればそうでない面もあるかと思っておりますけれども、予算化した事業をしっかりと実行することによって、目標に向けて頑張りたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

先ほど言われたとおり藤田課長おっしゃるとおり、当初懸念されている最悪の場合を予想した数

字よりもさらに上回った人口減少がずっと続いているということなんです。

ちょっと見方を変えまして、それではお聞きしますが、本年度の新規学卒者の、卒業者の管内の就職状況はどうなっているのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

お答えいたします。

新規学校卒業予定者、高等学校の部分でございますけども、94人の求職に対しまして、今のところ93一応就職が内定しているということで、1名まだ未定という状況をハローワークのほうからお聞きしているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

私、管内の就職者数というのを聞いてるんですが、糸魚川管内ね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

失礼いたしました。

管内は、今のところ93の就職予定のうち51が管内というふうにお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

51名のうち、男女比はどうなってますか。

〔「議長、反問します」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

反問を許します。

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

申しわけありません。

最後のほうちょっと聞き取れなかったもんですから、もう一度お願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

管内就職者の男女比について。

議長（倉又 稔君）

反問を終了します。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

失礼いたしました。

管内51名のうち男性が38、女性が13の内訳であります。失礼いたしました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

市長、大体、学年、高校生全部、大体400人ぐらいが卒業した中で、地元系魚川市に残る子が51人しかいないということなんですよ、高校を卒業した時点ですけどね。しかも男女比が38対13です。この現状についてどう思いますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に我々の地域の仕事といたしましうか就職先が非常に偏っているなと思うわけでありまして、そのバランスがよくないというのは、これからも見受けられるかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

結婚するにも出産するにも女性がいなけりや何もできませんよね。女性が定着できない理由というのは、どのようにお考えになってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

先ほどの中学生のアンケートの状況を見てもわかるように、やはり外への憧れ、やれ買い物にしる遊ぶ場所にしろ、それから家の跡を継ぐというような考え、そういう面からいって女性が市外への憧れ、そういうものが強い結果が出てるのかなというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

出てるのかなとかわいく答えてもらいましたですけど、そういう甘い状態じゃないでしょう。いいですか、雇用の安定というもの、それから地域間の賃金格差、糸魚川ランク本当に低いんですよ。同じ仕事してても糸魚川のほうが仕事が安い。それから、男女の雇用機会均等法、それから今盛んに言われている同一労働、同一賃金、それから女性なんか特にそうですが、正規雇用の場面など著しく低いんですよ、押しなべて。これらについては、どのように是正していくんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤産業部長。〔産業部長 齊藤隆一君登壇〕

産業部長（齊藤隆一君）

管内の女性労働者の実態については、今、古畑議員の言われるとおりだと思っています。

12月のハローワークの話の中でも、今現状ですけれども、求人側も、いわゆる正規職員というよりは、いわゆるパートの求人が多くなっている傾向が続いているというふうに分析しております。行政サイドで対応できるものもあるかと思っておりますけれども、やはり地元産業の振興という部分で正規職員化に向けた取り組みをしていく必要があるのかなというふうに思っております。やはり若い女性も含めてでありますけれども、女性の皆さんが今の社会でありますので、希望される場合は、やはり仕事を求めているわけありますので、そういった労働環境が必要だということ。

もう一つは、有効求人倍率は、糸魚川市はこれまでもずっとそうですけれども、12月現在でも1.19倍でありますけれども、大きな変化というのは、県内の有効求人倍率が今まで糸魚川よりも低かったんですけれども、県の平均が糸魚川市を上回ってきました。ということは、全体的に県内を見た場合には、糸魚川の求人の状況が悪化しているという見方でもあります。そういう市を取り巻く状況もありますけれども、本来であれば男性・女性を問わず、しっかり正社員化として採用される、働く場所があるというのが望ましい姿だと思っておりますので、これについては、また十分意を配していきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

これもそういう現実味のない話しとってだめなんですよ。これもっと真剣にこっち側の総合戦略でここまで人口に対してしっかり詰め込んで分析してるのに、なぜ施策段階になると当たりさわりのない、どこの市町村でもやってるような仕事しかできないんですかね。いいですか、婚姻数、結婚する数を上げると言いますが、先ほども言いましたけど新規学卒者の男女比でさえ38対13、これ3対1でしょ。若い世代でさえ3対1、これで結婚できるんですか。それから出生数や出生率が上らない背景は何だと考えますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

1つは糸魚川市の人口における独身者の男女比が相当離れているという現状があり、なかなか結婚したくてもできないという現状があろうかと思えます。出生数がふえない理由といたしましては、当然のことながら、現在、結婚する数がやはり少ないということで、日本の場合は婚姻しないとなかなか子供ができない、つukれないという状況でございますので、その部分が反映してるのではないかというふうには分析しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

出生率も上がらんのは。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

失礼しました。

出生率も今と同じような婚姻数がふえてこないということが原因であろうというふうに思っております。

議長（倉又 稔君）

暫時休憩します。

午後2時03分 休憩

午後2時03分 開議

議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を再開します。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

それじゃあ合計特殊出生率が上らない理由は何だと思えますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

岩崎市民部長。〔市民部長 岩崎良之君登壇〕

市民部長（岩崎良之君）

合計特殊出生率につきましては、全国では約1.42ほどですけど、糸魚川市につきましては、平成25年が1.68、平成26年が1.73ということで合計特殊出生率自体は、全国平均よりは上回っております。

ただ、出生数としては、ふえてきておりませんで、この原因としては結婚される方は少ないんですけど、結婚される方の生まれるお子さんの数が多いというふうに分析しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

いいですか、重点施策として人口減対策を挙げてるんでしょ。具体的に実数を上げる方向で目的をしっかりと決めていきたいと市長が答えているんでしょ。何でこんな単純で基本的なところの答えるところでおたおたするんですか。いいですか、女性の出生数や育児に対する支援、出産・育児に対する支援、これは産休や育休に対する制度を確立していかないと出生率って上ってこないんですよ、合計特殊出生率上ってこないんです。じゃあこれに対して企業等に理解と協力というものは呼びかけているんですか。それについて、今どのような段階になってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

子育てしやすい環境の中でワークライフバランスの助成制度も取り組んできたところでありますけども、本来お使いいただきたい企業からの利用がなかなかなかったということで制度を中断した経過がございますけども、そういう部分におきましては、我々が事業計画をして、そのPRが、PR不足と、また、関係団体との連携が弱かったのかなというふうな反省に立っておりまして、その点につきましても、今後新たに強化してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

本気で糸魚川市の人口対策に取り組むには、女性をいかに多く、1人でも多くこの糸魚川に定着させるかを考えなくちゃなんのですよ。

それから、やっぱり企業の支援というものも糸魚川のために、企業が働く女性のための支援策というのを、私はしっかり打ち出してきてほしいと思うんですよ。最近では、今回も新年度予算にも上がってきましたけど、キッズランド、これは、ひまわり保育園の取り組み、こういうものに私、今、注目してるんですよ。事業所内保育の拡大版として、私は期待している。これは、各企業者、これは企業営、企業が経営する育児支援の施設なんだよね。行政が全部金出すんじゃなくて、企業が事業所内保育の延長として、企業が整備して、そこに子供を集めて多種多様な女性の育児支援をしていこうという、これはおもしろいんですよ。だから、これはもっと協力して、各企業にも私は参

加を呼びかけるべきではないかと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

教育次長（竹之内 豊君）

今ほどお話がありましたキッズランドさん、事業内保育ということで、従来は従業員さんのお子さんを事業所内で保育しておったものでございますが、4月からは地域との連携ということで、従業員さんのお子さんのほかに地域の未満児も預かっていただけるということで、市内では乳児・1歳児・2歳児の保育のニーズが非常に高くなっておりまして、市全体では定員より下回っておりますけれども、地域的に一部の地域では希望するところに預けられない、定員がいっぱいだという事態も出ておりますので、こういったところには非常に期待をしておりますし、また、希望する園に入れなかったところには、ぜひこういったところもありますよというご紹介を積極的にしていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

人口対策、特に若者定着、女性対策につきましては、私もっと危機感持ってやってほしいと思うんです。若い世代に対して魅力あるまちづくりというのは、一体何でしょうか。

若い世代にとって最大の関心事は、恋愛なんです。目移りするほど恋愛対象がいることが、最大の魅力のあるまちなんです。親にとって最も大事なものは、地域の発展や糸魚川市の未来より、子供の幸せなんです。だから、子供が都会に出たいと言ったら反対しないのであります。夢をかなえて、若者や女性が輝くまちづくりを実現し、持続可能なまちづくりを推進するためには、何度も言いますが、女性の地位向上、就労条件の改善、子育て支援の拡充が不可欠であり、若者の市外流出を食い止めるには男女の出会い、安定した収入、遊び場が不可欠なんです。環境をどう改善できるか、現状の取り組みでは殊さら不十分であり、さらなる危機感を持って取り組むべきであろうと私は考えます。

市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員のお立場から申しますと、やはり非常にそういったところに力を入れるというご指摘だろうと思うわけですが、私も同じでございます。私もやはり、いかに女性が働く環境というのは、私は今、大切にしていきたいと思っておるわけですが、なかなか思うようにいってないところもご指摘のとおりあるわけですが。そういったところは、しっかり広げていきたい、女性が

本当に結婚しても、そして子供さんがいても働けるようにしていきたいとは、進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

市長、私も3人の子供のうち2人地元に残ってもらいました、男の子と女の子。けど、2人とも恋人できないんですよ。かわいそうだと思いますよね、朝から晩まで働いて、本当に1日何十時間働いてるんだというぐらいよく働いてますけど、遊ぶ場も少なく本当にかわいそうだと思う。この現状が続けば、やはり若い者は残りませんよ。これはやはり何とか解決しましょう。よろしくお願いします。

次、地域活性化とコンパクトシティの推進なんですけど、これ東京23区と同等の広さ、森林率が80%を超えて、幾つもの深い谷に分断されて、しかも豪雪地帯である糸魚川市は、極めて行政効率の悪い土地柄だと思っております。加えて、人口偏重主義、人口が多いからいいという国や県の施策の展開によって、さらに中山間地の暮らしは厳しいものになっております。集落の存続可能性調査というもの、小さな拠点づくりというもの、これをどう進めていくのか。特にこのプランの中にも拳がってますが、小さな拠点づくりというのは、どう進めていくおつもりなのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

地域の拠点づくりをどうやって進めていくかということでございますけれども、先ほど来お話ししておりますように、それぞれの地域づくりプラン、これを地域の皆さんとともに策定を進めているわけですが、そういう地域づくりプランの中で、地域でどういう住みよい地域をつくっていくか、あわせて公共施設の総合管理指針も先般、案をお示ししながらお話しさせていただいておりますが、そういう公共施設、あるいは生活のためのサービス施設、例えば買い物の利便だとか、あるいは金融の問題だとかというようなものも含めまして、交通体系とあわせてそういうまちづくりをどのように拠点性を持ったり、あるいは利便性を確保していくかというものを考えていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

これもやはり前の人口ビジョンの中で非常に危機的な状態というのを示されてもらいましたよね。小滝、現在161人が2060年には6人、歌外波が323人が31人に、上早川は702人が149人に、小泊が476人が63人と、確実に減っていきますよ、というよりか集落としての

機能を果たさなくなりますよという厳しい数字がもう皆さんのほうでわかって出してるわけだ。現状でも厳しい中で、そんなこれから地域プランをつくってやってく、そりゃプランがなきゃ何もできないの私はわかりますけど、その辺につきましては、もう少しペースを上げて考えなければ地域が存続できなくなるのではないかと私は懸念しとるんですが、その辺いかがお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

人口ビジョンの中の地域別については、今、古畑議員おっしゃるような形でお示しいたしております。

一方で、それぞれの地域において1%回帰論というのも今、地域に向かって説明をさせていただきながら地域づくりの取り組みを、また違う角度で1%人口が回帰してくれば、数的には地域で少ない人数のところは3人とか4人とかになるかもしれませんが、それでもそういうことを積み重ねることによって地域は存続していきますし、ひいては糸魚川市全体の地域の持続性にもつながっていくという取り組みを地域・市内全体でそういうものを展開していくことが必要だということで、今取り組みを進めているところであります。

議長（倉又 稔君）

補足の答弁ありますか。

失礼、続けます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

これは、たくさん手が先ほど挙がりましたからね、答弁側で。やる気のある証拠だというふうに思っております。これ危機的状態、もちろん市長、中山間地で活性化というのは、最初に出たときの大きな命題ですから、私ごとき平場の人間が言うよりも十分にご理解されてるんだろうと思っておりますが、私のところには数々の悲鳴も聞こえてきておりますので、これは早急なる対応よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、最後、3番、公立高校、これは今後10年間で全国813の高校が廃校となります。新潟県でも90校を76校、14校以上を減らすと。お隣の朝日町では、先日行ってきましたけど、泊高校の廃校危機に住民を超える2万7,000人の署名を集めて存続を訴えてきた。高校を守ることは地域を守ることなんだ。私も全くそのとおりだと思います。

そこで、お聞きしますけれども、白嶺高校学級減による進学状況は、本年度どのように変化したのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（山本 修君）

議員にお答えいたします。

市内の中学校の進路希望の調査、1月末の現在ですが、白嶺高校の希望者が市内では100名程度となっております。大きな上越市を希望している生徒が59名、1月末の現在の調査では、そのようになっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

そっちからいただいた数字なんでもっと正確に言ってくれませんか。そのほかに、その他とかあるでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（山本 修君）

失礼いたしました。

その他、上越市以外の県内・県外ですが、19名であります。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

いいですか、平成26年度、市外のほうへ出られた数は46人だった。それが本年度1月の状態でありますけれども、上越市内の高校へ59人、富山等の魚津等、そのほかの私立高校へ行かれた方が19人、合計78人が流出したわけだ。こうした子供たちが78人も外へ出ていかなくちゃいけない現状につきまして、どのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

教育次長（竹之内 豊君）

これ全てが白嶺高校の学級減による増ということではないというふうには思っております。例えば高田高校等より国立大学への進学に有利なところを目指しているという方もいれば、小中一貫に通ってる子供もいる。いろんな状況の中で、ただ昨年よりも32人が市外のほうに多く出てしまった。これは当初の、県から白嶺高校1学級減が示されたときに、やはり市外からも100名程度が例年受験している。それに対して、市内の子供たちが50人ぐらい外へ出て受験しているという状況の中で、30人ぐらいは影響が出るのではないのでしょうかというところを県のほうにも申し上げてきたところですが、そのときの予測がほぼ当たった32人の増というふうな結果じゃないかとい

うふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

何その冷静な答弁は。24年が57人、25年が52人、平成26年が先ほど言ったように46人、そして平成27年が78人も外へ出てるんですよ。それが何で予想どおりになるんですか、おかしいじゃないですか。異例の事態なんだから、これに対して魅力ある学校、高校をつくらざるを得ないという論点にしていけないとおかしいでしょ。

もう時間がないんで先へ行きますけど、市内高校の統廃合、あるのかないのか、もう一回、年次計画については、どうなってるのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（山本 修君）

12月に出されました県教育委員会の構想によりますと、平成31年度から34年度までの間で、糸魚川市にありますエリア5ですが、普通科系の高校と総合学科の高校を統合し、総合選択制の高校を設置するとなっております。このエリア5では、総合学科の高校は、糸魚川白嶺高校と新井高校の2校でありますので、そのことを指しているかと思われます。平成32年ごろには、具体案を示すというふうに伺っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

この白嶺高校1つなくなるということは、私は大きい問題だと思う。

ただ、糸魚川高校、白嶺高校を対等にして合併して総合選択制というのは、ある種、逆には大きなメリットがあるのではないかなと私はそう思うんですよ、部活動だとかほかでいるんなことがあるけれど。

ただ、そうなった場合、校舎やグラウンド、体育館、それから専門課程に合わせた施設整備というのはどうなるんですか。今のまんま統合したことにして、あっちが糸魚川高校でこっちが白嶺高校の分校みたいな扱いになってくるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

教育長（田原秀夫君）

お答えいたします。

今ほどの白嶺高校が学級減となる、また県が将来構想を発表した、そういうことは、糸魚川にと

っても糸魚川市に住む、就職するそういう子供たちの減につながりかねないということで大変な危機感を抱いてるところであります。今ほどお話にありました、これから校舎がどうなるのか、また、学校施設どうなるのかということにつきましては、これからは再編計画を31年度から実施する段階において検討されるものとは思いますが、ただ、計画どおりに実施するかどうかは、今後の状況を見ながら、また地域の意見を聞いてということも県の教育委員会は言っておりますので、計画どおりに行かないような、糸魚川市としては行かないような動きを、これから懇談会を立ち上げていたしまして、県に意見を届けてまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

これは、先ほど言ってるように高校守ることは、地域を守ることと私はイコール。何回も言うけれど、やはり地元高校に、特に白嶺高校に卒業された方が多く、この糸魚川の中へ就職してくれてるんです。減るのはこれからですから、今より現状はさらに悪くなるということなんですよ、市長。だから、魅力ある高校、学校づくりというのは、大変に、我々はよそごとじゃない、真剣に考えなくちゃいけないことなんです。

じゃあ魅力ある学科とは、どのように決められて、地元の意向というのは、どの程度反映されるんですか、その辺のお話というのは、担保されてるもんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今ほど議員ご指摘の点につきましては、9月議会でも、12月議会か、にされたわけですが、私もやはりそのときに糸魚川高校と白嶺高校が合併するという、やはりその辺はなかったんですが、議員から発言があったときにそういう線もあるなど。それは今メリットを言いましたが、逆にデメリットも大きいわけでありまして。非常に今、糸魚川高校の魅力も出せない、白嶺高校の魅力も出せなかったら両方とも自滅するような、私は危機感を感じております。

ですから、私は今、高校の再編成の中で、やはり人口減少でなくて少子化から出てくる学校の再編成を考えたときに、ただ数だけでいいのか、やはり魅力のある高校は少ない学級数であっても残すべきと我々主張してまいりましたし、それが1つの例として海洋高校を例に挙げて取り組ませてもらいました。そういう1つの道筋はつくったわけでございますので、それに向けて我々は進めていかないかんと思う。

今、白嶺高校の魅力は、どうあるべきか。もう一つは、やはり糸魚川高校の魅力をどうあるべきかもやらにゃいかんと思っております。糸魚川高校だけは残るなんていう確たるものはないわけでありまして、その辺をただ今白嶺高校が少し注目を浴びてますが、私は白嶺高校だけではないと思っております。その辺もやはりしっかり自覚しながら学校側もやっぱりその辺を、危機意識を持

ってもらわなければだめだと思っておりますので、その辺を連携しながら進めていきたい、そして我々がどう支援できるか、また高校側はどのような魅力をつくっていくのかというのを早急につくり上げていきたい、またつくり上げなくちゃいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

全く一緒です。何か言い返すものもないんですけど、白嶺高校を守りたかった。だから3学級になることに対しては、あれだけ私は反対したんです。3学級じゃ、はっきり言って、1学年3学級じゃ学校としての体をなさんでしょ。

したがって、数が減っていくわけだから総合選択制というものに移らざるを得ないというふうに県はしたいんだろうと私は思う。最初に申し上げたように、じゃあ魅力ある学校とは何か、学力水準が高くて国立や有名私立大学へ入学が可能であること。要するに学力レベルが高いということ。それから、文化・スポーツ、これが盛んで、優秀な指導者がいること、そして専門知識や資格が習得することが可能で就職が有利になること。そして、それに見合った校舎、グラウンドや体育館、プールなどの施設整備、それから専門的なものを学ぶだけの専門的な器具や道具、そういうものがそろふこと。

市長、どうせ県が1つになれと言うんなら、これらを全部達成できるような魅力ある学校づくりやりましょうよ。特進クラスがあって、そこにはちゃんと優秀なところがある。クラスにここは全部、総合学科だけどこへ行けば間違いなく国立でも有名私立でも狙えるよ。子供の数がこれでふえたから甲子園行こうが何しようが糸魚川から全国大会行ってくれ。やっぱりそういうふうな、今度は地域全部が挙げて応援できるような高校、魅力ある高校づくり。それで、31年からなんですよ。ということは、それまでにある程度の考え方や地域の熱を醸し出していかなくちゃいかんのですよ。

市長、全く意見一緒ですから、要は、あとは市長が陣頭指揮をとってもらわなければならない。南魚沼や今回、総合学科の上越総合技術高等学校だとか、それから高田のメディカルだとか、あれはやはり地元からの強い要望だとか、ああいうの何年もかけて新しい学科ができてるんですよ。だから、あしたからやってもらわにや間に合わないということなんです。ちょっとハッパかける形になりましたけど、市長、最後に意気込み、お考えお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

全く同じ考えなんですけど、私はやはり今いろんな講師や整備と言いましたが、私はまずは、自分たちはどういう学校をつくりたいんだというものが先だろうと思っております。それに対して我々はどういう応援ができるんだという形に入っていくか、我々が全部お膳立てしてどうぞという形は、なかなか魅力を感じないんじゃないかなと思うわけでありまして、その辺をしっかりとめてい

く、我々、海洋高校でやってきました。要するに市が精いっぱいやれるものは、どうなんだというものを精いっぱいやってきました。それによって生徒も、また先生もそれに向かって一緒になって動いていったわけでございますので、やはりまずは学校と、そして生徒がどういうものに魅力を感じているのか、糸魚川で学ぶとしたら何を学びたいのか、そういうものをしっかりとある程度、方向性を詳しく見させてもらって、じゃあ行政は、じゃあどれを応援できるのかという形に持っていくのが、私は一番いいのではないかなと、我々も当然でき得る知識、我々の持ち得るテクニック等は、当然提供もさせてもらう中で判断してもらっても結構だと思ってるわけでございますので、そういう形で私は、やはりこの糸魚川には3つの高校が必要と考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

これで終わりますけれども、今回は一連して魅力ある、やっぱりまちづくり、魅力ある人材づくり、そしてやっぱり必要不可欠である夢づくり、最後は高校という具体的なところで話は出ましたけど、往々にして、やはり市長、もう少し行政全体熱を込めて、最後の市長の答弁よかったですよ。やはりそういう市長の熱が伝わって、全員が新しいまちづくり、糸魚川の防衛線のために頑張ろうという、そういう意気込みを私はもっと示していただきたいというふうに思います。

これで終わります。ありがとうございました。

議長（倉又 稔君）

以上で、古畑議員の質問が終わりました。

暫時休憩します。

再開を2時40分といたします。

午後2時30分 休憩

午後2時40分 開議

議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を開きます。

次に、新保峰孝議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。〔16番 新保峰孝君登壇〕

16番（新保峰孝君）

日本共産党の新保峰孝です。

私は、産業振興策について市独自の経済対策、新幹線騒音対策、並行在来線（えちごトキめき鉄道）等の利便性向上について、米田市長のお考えをお聞かせ願いたいと思います。

総務省が2月26日、公表した国勢調査の速報値によりますと2015年10月1日現在の日本